

〈 社会人の窓 19 〉

仁枝洋氏のご逝去を悼む

淀川愛好会相談役 澤井 健二

2022 年 8 月 31 日、本会会員で日本水防災普及センター顧問の仁枝洋様（享年 81 歳）が逝去されました。

仁枝様は、本会の発足から 1 年を経た 1998 年 3 月に当時の会長であった井上治先生のご紹介で、恵子夫人とともにご入会いただき、以後、本会の行事にたびたびご参加くださっただけでなく、他団体との交流・連携に並々ならぬご指導、ご尽力を賜りました。誠に感謝に堪えません。

仁枝様は北海道のご出身で、大阪市にあるケーエーケー技術研究所にお勤めになり、土木技術の発展に貢献なさっていましたが、ご退職後はボランティア活動に没頭されました。

仁枝様と本会とのつながりについては、YODORIC NEWS No.67 の〈会員の窓 21〉に仁枝様ご自身が寄稿くださっていますが、淀川管内河川レンジャー、桂川流域クリーン大作戦、天若湖アートプロジェクト、桂川流域見聞（桂川流域ネットワーク）、京の川の恵みを活かす会、京都水辺保全ネットワーク（元、京都河川美化団体連合会）、BYQ ネットワーク（琵琶湖・淀川水質保全機構）、BY ネット（琵琶湖・淀川流域圏連携交流会）、近畿子どもの水辺ネットワーク、水辺の匠（ウォーターステーション琵琶の会）、たいこ橋さなみフェスト（八幡市）、草津みなと鯉海道まつり（京都市伏見区横大路）との交流など、四半世紀にわたっての深く長いお付き合いでした。

仁枝さん（京都市伏見区納所）と私（京都市伏見区日野）は住居が同じ京都市伏見区で、距離が約 8km と比較的近いことから、よくご自宅へもお伺いし、車で送迎させていただくこともしばしばでした。また、私が活動拠点としている京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーがちょうどその中間点にあることから、自転車で訪ねてくださることも多く、その体力と気力にはいつも敬服していました。

仁枝さんは携帯電話を所持されず、野外で連絡を取り合うのに苦労したことがたびたびありましたが、公衆電話から電話がかかってくる電話はたいてい仁枝さんでした。そして、「にえだですー。今、・・・にいますー。もうすぐまいりますー。」という声を聞くと、あわてても仕方がないと、仁枝さんのペースに巻き込まれるのでした。→



アオサギ



カヤネズミの巣

第5回

河川レンジャーとめぐる
川歩きガイドブック
～桂川編～



河川レンジャーアドバイザー
仁枝 洋



長岡京市
大山崎町
京都市伏見区
宮前橋
淀川
JR 京阪電車
大山崎駅

桂川に架かる宮前橋から天を仰げば、高く広い空が見渡せる絶好の場所です。遠く比良山系が望め、比叡山、東山、北山、西山から北摂の山並みが、さらには金剛生駒山系の山々が 360 度の大パノラマで眺望できるスポットです。桂川の下流域は、桂川流域の約 50% の河川が流れ込む下流にあり、ワシやタカが空を舞う雄姿や小鳥たちの姿が見られ、冬が近くと遠路はるばる渡り鳥も飛来します。野山には針葉樹や広葉樹、竹林などが整理よく植林されており、京都らしい風景が見られます。季節ごとに山肌の色合いも変化し、特に春の山桜、秋の紅葉は絶景です。堤防や川辺ではハイキングや川遊び、野鳥観察など 1 年を通して楽しい川歩きが体験でき、初夏にはアサミの花が見られます。草花や野鳥のさえずりを聞きながら自然を堪能して下さい。

また、古くは舟運で栄えたこの地域は京の都の歴史や文化・物流や外交の要衝であり、堤防沿いに町並みが栄えて、八幡・伏見・長岡京にかけては歴史街道となっています。美しい川を守るために、毎年 2 月の第 3 日曜日には桂川クリーン大作戦を行っています。今年もたくさんの方々に参加いただいて、一斉清掃を展開しました。今後地域のみなさんのご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。



アオサギ



カヤネズミの巣



アオサギ



カヤネズミの巣

→仁枝さんのお人柄はとにかく温厚で、常に脇役に徹して人を立て、後進の育成に当たってられました。その言動から強く感化を受けたのは、何事に対しても、実に丁寧に対応される姿勢です。私などが電話やメールで粗雑に対応することが多いのに対し、仁枝さんは頻繁に足を運んで、資料を持って直に相手と接し、話をされるのです。

最近の2年間において特に印象深いのは、マイ防災マップの作製における仁枝さんのきめ細やかさです。京都市伏見区羽束師地区におけるマイ防災マップは仁枝さんのご自慢の成果でした。

仁枝さんが大変力を入れてこられたけれども、完成に至らず、気にしておられたことがらに、八幡市放生川における水辺再整備、桂川納所浜の保全整備、淀・納所から横大路における市内水路の親水整備があります。私は仁枝さんから何度かそれらのイメージ図を見せていただき、陰ながらその実現を期待していました。今後、いつの日かそれらが実現できることを祈りながら、ご冥福をお祈りしたいと思います。仁枝さん、長い間、本当にありがとうございました。今後とも天国から私たちをお見守り下さい。

合掌

イベント報告

水害碑探訪ツアー

2022年6月26日(日)9時半から17時にかけて、和歌山県広川町を中心とした水害碑探訪バスツアーが行われました。摂南大学の学生、関係者の他に外部から応募された方々、計約30名が参加されました。このツアーの水害碑は津波に焦点を当てられており、現地の方々がその歴史について語って下さりました。また、施設の中には、当時の津波を再現した映像やシミュレーションもあり、被害が見学者にもわかりやすくてきていました。ツアーでは他にも、奈良県から和歌山県を流れる一級河川「紀の川」に行き、河川での水害の歴史と対策、生物面についての取り組みも学ぶことができました。今後、私たちが生きている内に起こると言われている南海トラフ地震に対する意識を高める良いツアーでした。(S・S)



梧陵濱口君碑（廣八幡宮）

日野川水辺フェスティバル

7月2日(土)に京都市伏見区にある春日野園横の日野川で、小型ボートの体験乗船支援をさせていただきました。炎天下の日でしたが、かすがのえんこども園の園児たち、たくさん子どもたちが来て、ボートの乗船や川遊びを楽しんでくれました。子どもたちと共に川あそびして、私たちエコシビル部も親水空間の水辺を楽しむことができました。今後も子供たちや市民の方々に、河川を身近に感じてもらえるような取り組みを行っていきます。(I・R)



川遊び（日野川）

淀川まるごと体験会

2022年8月21日(日)、淀川河川公園点野野草地区で淀川まるごと体験会を催すべく、前日夕方まで準備万端整えていましたが、あいにく当日は朝から雨となり、中止を余儀なくされました。しかし、午後には雨も上がり、みんなで後片付けを行いました。(S・K)

八幡の背割堤とグリーンインフラ「水辺の生き物 探検隊

2022年8月6日（土）10時から14時まで、淀川河川公園さくらであいが主催する「水辺の生き物探検隊」が琵琶湖・淀川流域圏連携交流会（BY ネット）と近畿子どもの水辺ネットワークの協力で開催されました。京都府と大阪府の小学4年生以上と保護者計25人の参加があり、さくらであいがBYネット澤井健二代表幹事の挨拶に続いて、河合典彦副代表幹事が淀川の自然と歴史について講義され、前川勝人幹事が川遊びの「安全3か条」を説明された後、木津川河川敷で生き物探しを行いました。カマツカやニゴイ、ボラをはじめ、コクチバスなど多彩な魚がとれ、部屋に戻ってからは、魚のスケッチを行うなど、盛りだくさんのメニューに参加者は満足げでした。（S・K）



生き物探し（木津川）

シニア自然大学校

2022年9月3日（土）に摂南大学寝屋川キャンパスにてシニア自然大学校講義が行われました。午前中に行われた石田先生、澤井先生による講義では、人と川のつながり、水辺の保全・活用、淀川流域の生態環境、寝屋川の水辺整備について話していただきました。午後はEボート体験、点野砂州の見学会を行いました。

参加者の方々に、川に関する情報を直接共有できた貴重な時間となりました。これからも川に興味・関心をもっていただけるようなイベントを実施し、多くの方々に川を身近に感じてもらいたいです。（N・K）



Eボート体験（淀川）

いい川・いい川づくりワークショップ

2022年9月3日（土）と9月4日（日）、オリンピック記念青少年総合センターで開催された「いい川・いい川づくりワークショップ」では、チーム寝屋川連携として、摂南大学エコシビル部とねや川水辺クラブが協力し、高齢化・活動低下を繰り返す若者の活動や、流域治水活動などについて発表し、入賞することが出来ました。

この活動を通して、全国のいい川づくりをするための活動を知ることができ、貴重な体験となりました。

今後、この経験を活かして、若い世代の僕達と熟練者の方々が協力して、淀川をいい川へとなるように頑張っていきます。（F・M）



流域治水活動の発表

ヤングケアラーの子供達のキャンプ「ヤンケアびわキャン」の水辺遊び

2022年8月7日（日）と9月11日（日）、特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター（滋賀県大津市）が主催する「ヤンケアびわキャン」の水辺遊びを、天若湖アートプロジェクトの3つのみずたまりイベントと位置付け実施しました。会場は大津市近江舞子の白汀苑前の湖岸で、素晴らしい風景のもとで、“みんなが湖の子、自由で平等”をモットーにEボートやSUPを全力で楽しみました。みんなからの「ありがとう、また来るね」忘れません。最後に、協力していただいた石田先生、澤井先生、エコシビル部学生、OB、OGの皆さん、本当にありがとうございました。（M・M）



EボートとSUP（琵琶湖）

〈学生の窓 19〉

地元の憩いの場と魚類の居場所

三木 智朗



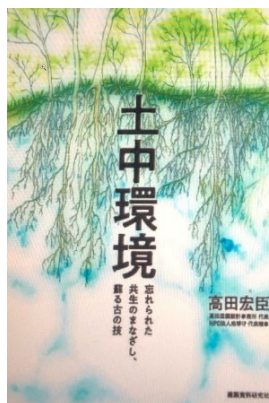
私は現在、淀川点野地区にあるワンドに関しての生態、環境調査をテーマとして卒業研究を行っております。4月、7月に4つあるワンドで現地調査を行い、各ワンドが魚類にとって生息場として機能しているかを水質や土質という環境面、外来魚の食性や成熟度、魚種の把握といった魚類面、大きく分けてこの2点から点野のワンドは今後も継続して魚類の居場所となり得るのか日々調べております。

このように研究箇所として選んだ淀川は、私の住む京都府宇治市に流れる宇治川につながっています。宇治川は淀川ほど広い河川敷はありませんが、地域の住民が散歩やランニングなど憩いの場として多くの人に利用されています。この大好きな川の研究に関われることに非常にうれしく思っています。

今後も10月に点野ワンドでの現地調査を予定しており、淀川の魚類のための研究を続けたいと思います。

摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ4年生 就職先：株式会社全日本コンサルタント

書籍紹介



「土中環境：忘れられた共生のまなざし、蘇る古の技」

225 ページ

発行：2020年6月20日初版。

著者：高田宏臣

定価：本体2500円＋税。

発行所：株式会社建築資料研究社

1969年千葉県生まれ。東京農工大学農学部林学科卒業。

株式会社高田造園設計事務所代表で1997年独立。

NPO 法人地球守代表理事など。

著書「これからの雑木の庭」主婦の友社他

「書籍内容」

土の中を水と空気の流をつくる水脈（土中環境）が、流域治水における大切な要素です。土中環境が分断して循環しないと、土砂災害や斜面崩壊などが起こる原因になるという、社会が見落としがちな視点を図版や写真などを取り入れて詳しく説明されています。

また、大地と共に生きてきた古人が経験的に身につけた「大地の呼吸」を土中環境から考えると、見えない視点が見える力になり、しかも通気浸透水脈のように動的に流れて、脳の血流がよくなるような心地よい内容の本です。（O・Y）

編集後記

99号は、仁枝洋氏のご逝去を悼むに始まりたくさんのイベント記事が掲載されております。編集委員のみなさんには、本当にご苦勞様です。今後とも残暑が厳しい折ですが、身体に気をつけてイベントに参加して記事をよろしくお願い申し上げます。

編集長 岡崎善久(岡崎善久建築設計事務所)

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：<http://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/index.htm>

E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp